



聖徳大学

令和6年度 SOA オープニングセレモニー

日時：令和6年4月20日（土）13：30～15：00

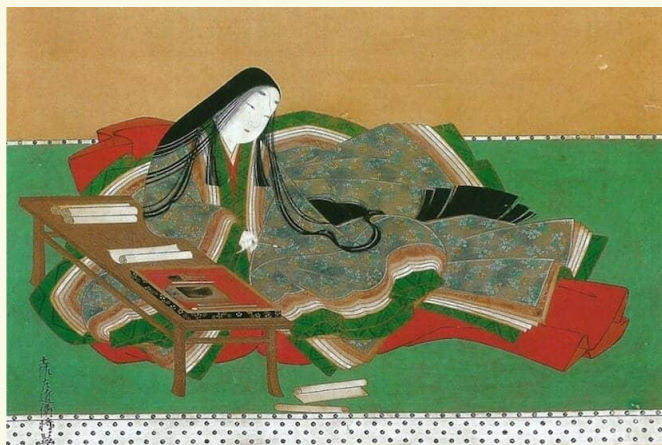
会場：聖徳大学キャンパス（千葉県松戸市岩瀬550）

定員：500名

企画：聖徳大学文学部

参加費：無料（事前申込必要）

講演：紫式部にみる〈学び〉の力



講演内容：

大河ドラマで注目を集める紫式部。『源氏物語』の作者として、あまりにも有名な存在です。しかし、平安時代における「物語」は、漢詩や和歌に比べて低いものとみなされていたことはご存じでしょうか。そのような時代にあって『源氏物語』は、女性読者はもちろん、男性読者をも獲得し、世代を超え、愛読され続けてきました。『源氏物語』が、物語というジャンル自体の価値を上げたといっても過言ではありません。では、紫式部はなぜ、このような長編物語を書くことができたのでしょうか。そこには〈学び〉の力がありました。彼女の〈学び〉はまず、フィクションの物語、すなわち、魅力ある登場人物、劇的な展開、深い心理描写と独創的な思想の反映という形で結晶化しましたが、それだけではありません。紫式部の〈学び〉は、現実世界の人々の心をも変えたことがわかっています。千年前の京の都に思いを馳せつつ、現代にも通じる〈学び〉のもつ力を明らかにしていきたいと思います。

講師：諸井 彩子（聖徳大学文学部文学科准教授）

プロフィール：

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程単位取得退学博士（人文科学）。専門は平安文学。

単著『撰関期女房と文学』（青簡舎）で第二次第十四回関根賞受賞。

【お申込み方法】

1月中旬に発表いたします。

